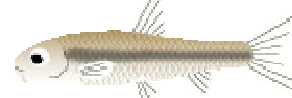


第 79 回定例会(総会) の案内

3 月 27 日(日) 午前 10 : 00 ~ 12 : 00 於 田主丸中学校

今後の活動及び事務局体制、規約等について

ヒナモロコの親魚交換、その他



繁殖用の親魚をすべて持ち寄って下さい。全部を混ぜ合わせ、再配分します。

総会としますので、出席できない方は議長委任とします。議長委任できない方は委任状を提出する(様式は問いませんが誰に委任するか明記のこと) が電話等で役員へ連絡してください。

第 76 回定例会 11/29(日) 10:00~12:00 於 田主丸中学校

活動状況の報告等の後、古川、美津留川の放流候補地の視察をしました。その様子を写真で紹介します。



今後のヒナモロコの放流のあり方や活動内容についてはヒナモロコ里親会の体制が確立した後に具体的に検討して提案していくことになります。

臨時総会(第77回)「平成22年2月13日」13:00
事務局長よりヒナモロコ里親会の新しい活動等の提案がありました。協議を進めましたが、総会というには出席者が少ない(半数にも満たない)し、委任状などの手立てもとっていませんでした。ここで決定するには至りませんでした。再度、事務局会(役員会)で検討・協議の上、再提案をすること、出席者を多くすること、出席できない場合は委任状の提出を求めるとなどの手立てをとって、総会を開催する方向を確認して終了しました。



水路視察及び講演会(第78回)「平成22年2月25日」10:00～

東海大学海洋学部水産学科の秋山信彦教授をお招きして、ヒナモロコの放流候補地等の視察と講演会を開催しました。10:00に田主丸駅に集合して、B水路、タナゴ水路、O水路、堤、おたから掘、古川、美津留川、くじらの森を案内しました。当初は水路で魚を捕獲する予定でしたが、時間的なこともあり、唯一、くじらの森で会員が短時間、魚取りをしました。秋山氏が以前、ヒナモロコを採捕された場所は激変し見る影もない状況に驚きながらも、昔の面影をもとに、具体的に場所を指摘されていました。

講演会は「保護・保全活動の実際 ミヤコタナゴの事例から」と題して話して頂きました。横浜市港北区の権田池での事例でした。生息地の復元には保護・増殖して放流数を確保すること放流適地を探索すること。そのためには魚が持続的に再生産できるように有機的環境要因と無機的環境要因が整っている必要がある。遠い将来においても放流予定地が開発されないこと。そのためには行政や地域住民の理解の必要があること。と話されました。また、種を保護するためには、一度なくなった個体群の復元は不可能であること、一度なくなった生息地の復元は困難であることを教訓にすること、つまり、種を保護するための最善策は環境そのものの保全である。場がなくなれば生き物は残せない。との結論でした。現場視察時の話など、今後のヒナモロコの保護を考える時の示唆がたくさんありました。



次回 第80回定例会の予定

4月 未定 日(日) 10:00～12:00 於 田主丸中学校
4月以降の予定については第79回定例会(総会)にて提案予定

